

紙面とらわれずに / 報道後の検証続けて

伝え 溶け込み 考える

ぼうさいこくたいシンポ



総合防災イベント「ぼうさいこくたい2021」（防災推進国民大会）の関連行事として、シンポジウム「防災・減災への新聞社の取り組み・役割」（TEAM防災ジャパンメディアチーム主催）が11月7日、岩手県釜石市市民ホールで開かれた。同県の岩手日報や中日新聞の防災・減災の取り組み事例を起点に、地域防災への関わり方や地方紙の果たす役割などについて議論した。今回は議論の内容を詳報する。（梅田歳晴）



岩手日報の川端章子支局長と中日新聞の寺本政司編集局長の取り組み事例紹介の、時事通信の中川和之解説委員と名古屋大減災連携研究センターの福知伸夫教授らとのシンポジウムが、釜石市民ホールで開かれた。中川和之の司会進行は、シンポジウムの趣意を述べ、被災地の現状や、被災地の課題などについて議論が交わされた。シンポジウムは、被災地の現状や、被災地の課題などについて議論が交わされた。シンポジウムは、被災地の現状や、被災地の課題などについて議論が交わされた。

岩手日報の川端章子支局長と中日新聞の寺本政司編集局長の取り組み事例紹介の、時事通信の中川和之解説委員と名古屋大減災連携研究センターの福知伸夫教授らとのシンポジウムが、釜石市民ホールで開かれた。中川和之の司会進行は、シンポジウムの趣意を述べ、被災地の現状や、被災地の課題などについて議論が交わされた。シンポジウムは、被災地の現状や、被災地の課題などについて議論が交わされた。

東日本大震災の直後、被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。

なぜ犠牲に分析可視化

川端章子 釜石支局長
十年経ち、犠牲者は三千人を数え、一人一人の犠牲を悼む。被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。被災者も求めたのは安全。

過去の教訓丁寧な報道

寺本政司 名古屋本社編集局長
「災害と災害の間の空白を生きて」が、被災地への関わり方や、被災地の課題などについて議論が交わされた。寺本政司の司会進行は、過去の教訓を丁寧な報道で伝えるべきである。

被災地への関わり方や、被災地の課題などについて議論が交わされた。被災地への関わり方や、被災地の課題などについて議論が交わされた。被災地への関わり方や、被災地の課題などについて議論が交わされた。

関東大震災の碑(名古屋)
日本一「唯一」の寺。名古屋市中区法王寺の法王山稲荷神社に建てられた「関東大震災の碑」。その建立は、震災から50年たった今年、11月21日。碑は高さ約5メートル、幅約2メートル、厚さ約0.3メートル。石碑の表面には、犠牲者の名前が刻まれている。この石碑は、名古屋市の中心地にあり、多くの人々が訪れる。石碑の建立は、被災者の犠牲を悼み、防災意識を高めることにつながると期待されている。

避難者受け入れ「共助」の証し

「共助」の証し。被災者の避難先となった民家の屋根には、被災者を受け入れた家族の感謝の言葉が刻まれている。この石碑は、被災者を受け入れた家族の犠牲を悼み、防災意識を高めることにつながると期待されている。

CBCテレビ
よる動画はコチラ
NBS(名古屋放送)のページからアクセス